



地球惑星科学連合（JpGU）2019年大会 開催報告

小島悠揮

2019年5月26日から30日の5日間に渡って、JpGUの2019年大会が幕張メッセ国際会議場を中心として開催された。今年度大会も、アメリカ地球物理学連合（AGU）やアジア・オセアニア地球科学連合（AOGS）、欧州地球科学連合（EGU）とのジョイントセッションが多数設けられた。発表数は5,000件程度（セッション数は240件）あり、参加者は約8400人（海外からの参加者は650名程度）で、AGUとの共催だった2017年に迫る大規模な大会となった。

JpGUは非常に幅広い分野をカバーしているため、連合大会のセッションは宇宙惑星科学、大気水圏科学、地球人間圏科学、固体地球科学、地球生命科学、教育・アウトリーチ、領域外・複数領域、の7つのカテゴリーと、二つの特別セッション（ユニオン、パブリック）に分類される。2019年度大会は、大気水圏科学と地球人間圏科学のカテゴリーにおいて、土壌物理学学会共催のセッション3つが開催された。セッションタイトル：**Subsurface mass transport, material cycle, and environmental assessment**（地質媒体における物質移動、物質循環と環境評価）（大気水圏科学 A-GE28, 代表コンビーナ：小島（岐阜大）、5月30日）、セッションタイトル：**Materials transport and nutrient cycles in watersheds; from headwaters to coastal seas**（流域の物質輸送と栄養塩循環 — 源流域から沿岸海域まで —）（大気水圏科学 A-HW22, 代表コンビーナ：小林（森林総研）、5月29～30日）、セッションタイトル：**Education and research for rehabilitation of agriculture against harmful rumors in nuclear disaster areas**（原子力災害被災地における農業再生と風評被害払拭のための教育研究）（地球人間圏科学 H-CG34, 代表コンビーナ：溝口（東大）、5月30日）。また、2019年度は共催セッション以外にも土壌物理学学会員を代表コンビーナとしたセッションが2つ開催された。セッションタイトル：**Conservation and restoration of soil environment at terrestrial surface**（地球陸域表層の土壌環境の保全と修復）（大気水圏科学 A-GE30, 代表コンビーナ：森（岡山大）、5月28日）、セッションタイトル：**New roles of soil science for extraterrestrials**（土壌科学の地球外での新しい役割）（大気水圏科学 A-GE31, 代表コンビーナ：登尾（明治大）、5月28日）。A-GE28とA-HW22セッションの発表言語は英語、H-CG34、A-GE30、A-GE31セッションの発表言語は英語と日本語（発表者が自由に選択できる）である。各セッションで土壌物理学学会員による発表が見られ、幅広い分野の研究者が集うJpGUならではの他分野の研究者を交えた活発な議論と交流が行われた。

本資料では、上記5セッションの概要および本大会での様子を報告する。